

耐震化

阪神大震災では、死亡者の9割方が自宅や家具の下敷きによる圧死とされています。住まいの耐震化が急がれますが、なかなか進んでいないのが現状です。進まない原因は、適切な業者や工法に関する情報がないことや経済的負担が大きいことです。

前田の取組み

- ◎設計士や施工業者など担い手の情報や実例を集め、データベース化して、公開するように求めています。
- ◎経済的負担軽減については、
 1. 行政による補助制度の拡充。
 2. 耐震補強をした場合の保証制度の創設。
 3. 所有不動産の有効活用に関する情報提供をするよう求めています。



バリアフリー化

高齢化などにより、介護が必要になったときに、車いす利用の妨げになる段差や十分なスペースがないなど狭小なため、自宅での生活を続けることが困難になる場合があり、段差等の解消(バリアフリー化)が求められています。

前田の取組み

特に民間賃貸住宅では、バリアフリー化が持ち家に比べ遅れていますので、対策を求めました。来年度から、高齢者向け賃貸住宅登録制度を導入し、バリアフリー化への助成を行うことが検討されることとなりました。

共に支え合う暮らし方

単身世帯が増加しており、世帯数の半数が単身世帯です。一人暮らしの場合、介護や病気になった時の不安や生活をともにし、助け合える人がいない寂しさや不便があります。自分や家族の生活は自立しつつも、家族以外の方ともかかわる豊かな人間関係を育める住まい方が求められています。

前田の取組み

下記のような共同居住の住まい方の普及啓発を行い、高齢者にとって安心して居住が継続できるよう求めています。

◎多世代の共同居住:

大規模な住宅で一人暮らしの高齢者と収入が少ない若者をNPO法人などが仲介し、結びつけ住居を共用する居住形態(高齢者の安全、交流、自立の手助けとなり、若者には、居住費が節約でき、家庭的雰囲気の生活が可能となっています。)

◎コレクティブハウス:

個人の自由やプライバシーのため、トイレ、浴室、台所が完備の専用住居があり、料理やだんらん等生活の一部を共に行ったり、設備を共用することで、個人や小家族ではできない豊かで安らぎと楽しみがある暮らし方を目指した共同賃貸住宅



キリトリセン

見守りと生活支援

一人暮らしや高齢者のみ世帯が増えてきており、日常生活上の生活相談や安否確認、緊急時の対応や一時的な家事援助等が求められています。

前田の取組み

- 高齢者の生活全体を支えるために、
1. その人の人間関係やどのような地域に住んでいるかなど、その人のまわりの環境も含めた援助を行う。
 2. 地域にどのような支援活動やサービスがあるのか調べ、必要とする人に結びつける。
 3. 行政が提供するサービスと調整を行ったり、新たなサービスを開発するなどができる「専門員」の配置を求めています。



今後ともみなさんの声を議員活動に活かしてまいります。アンケートへのご協力と「文京を話し合う会」へのご参加をいただければ幸いです。よろしくをお願いします。

発行=文京区議会議員 新風会 前田くにひろ(無所属)
前田くにひろと文京を楽しむ会

〒113-0023 向丘2-13-14 電話&FAX=03-3818-3191

E-mail=info@maedakunihiro.com

<アンケート> (該当するものに○をつけて下さい。)

1. 回答する方について

- a. 文京区 在住、在勤、在学、区外
- b. 性別 男性、女性、その他()
- c. 年代 ~20代、30代、40代、50代、60代、70代~

2. 文京アカデミーの推進に関して

次の各分野で、みなさんが実践されていることや文京区に対する要望等がありましたら教えてください。

実践していること 文京区に対する要望等

生涯学習

文化芸術

スポーツ

観光振興

国際交流

◎「これからの文京について話し合う会」

12月21日(月) 18:30~20:30 出・欠